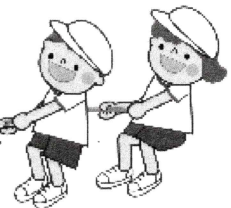
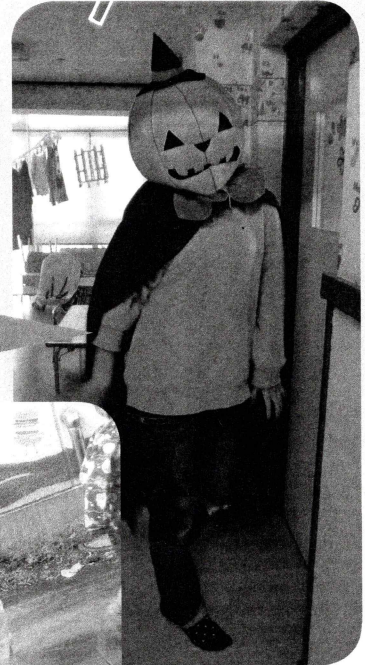


発行 社会福祉法人 聖友ホーム
聖友乳児院（乳児院）
聖友学園（児童養護施設）

ハロウィーン



目次	●コラム「下を向いて笑った子の話」ボランティア 小林 りか	2、3p
	●ふわふわ「個性を活かしたホームづくり！」	4、5p
	●このゆびとまれ「聖友♪子育てひろば」の紹介です!!	6p
	●ぴーちっこ広場にお集まりください	7p
	●ありがとうございました	8p

聖友乳児院 TEL 3338-1849 FAX 3338-4679

聖友学園 TEL 3338-1844 FAX 3338-1894

〒166-0001 杉並区阿佐谷北3-28-19

Eメール(共通) seiyugakuen@nifty.com ホームページ(共通) <http://www.seiyuhomu.or.jp/>

今年、乳児院では「コバカプロジェクト」がスタートしました。

これは「施設が求めている事務の業務の実現に向けて、情報やアイデアを提携し社会の中の様々な協力者と施設とを結びよう」というボランティア活動です。

今回は、ボランティア 小林りかさんに、プロジェクト立ち上げへの想いを書いていただきました。

「下を向いて笑った子の話」

ボランティア 小林りか

中学・高校時代の同級生、トコに連れられて、はじめて聖友乳児院を訪れたときのことを、今でも鮮明に覚えています。(トコというのは、西川理事長の学生時代の呼び名で、旧姓の床次=トコナミを略したものです)

入口にはしっかりと鍵がかけれられ、来訪者はまず手を洗って清潔にしなければなりません。子どもたちが危険な場所に飛び出さないように廊下の端には木製の扉が取り付けられています。子どもたちは、安全に守られている。そんな第一印象を抱きました。

私自身は大学卒業後、放送局の職員として番組制作に携わっていましたが、離婚をきっかけに一人娘をシングルマザー状態で育てていました。番組制作というのは、毎日決まった時間に終わる仕事ではありません。リサーチ、提案作成、取材、交渉、ロケ、収録準備、番組の構成やナレーション原稿などを書く作業、ポストプロダクションと呼ばれるロケ後の編集作業、完成した番組のチェック、予算管理…放送日までには、何かあっても必ず仕上げなければならぬという宿命もありますから、仕事はいつも山積みでした。子育てに関しては、うわの空だった

かもしれません。仕事と家事と子育てに追われて、私は常に疲れていました。

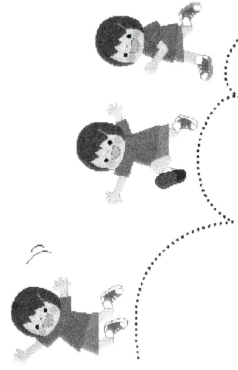
娘が小学校4年の頃、転機が訪れました。娘のクラスの担任の先生に対して生徒全員が反抗し、いわゆる学級崩壊が起きているという話が聞こえてきたのです。そして、どうやら首謀者の一人は我が娘であるようなのでした。同じ頃、娘は私にあまり話をしなくなり、何を考えているかわからない状態に陥っていました。親の離婚に心を痛めていることも、とつくに気づいていました。

考えに考えた末、夕飯を娘と一緒に食べながら話を聞くということを決めました。毎日やってみようかと思ひ立ちました。

「ねえ、もしママと毎日夕飯を一緒に食べられるとしたら、どう？」娘の反応を伺ってみようと思ひかけたところ、どうしたところか、娘はパッと下を向いて黙り込んでしまったのです。どうしたの？と顔を覗き込もうとしても、娘は顔を隠そうとするのです。うつむいた顔は、なんと満面の笑顔でした。しかし娘は、その笑顔を私に見られまいとして顔をそむけ、下を向いたのです。なぜ、そんな行動をとっ

たのか、私にはピンときました。娘は生まれてからずっと、「ママのお仕事を応援しましょうね」と皆から言われて、寂しいという感情を見せることを封印してききました。ですから、「毎日一緒に夕飯」という提案に対しても、「嬉しい」という感情を見せたいとは思っていません。そんなにも、自分の気持ちを押し込めて頑張ってきたのか、と私は胸を突かれました。

夕飯時に家にはいるためには、かなり大胆に職種を変えなければなりません。転職はキャリアの中断や収入減を意味していましたが、きつと意味あることに違いないと信じて、提案を実行に移すことにしました。毎日毎日、一緒に食べて話すということとを繰り返すうちに、変化が現れました。親しい友だちのこと、学校であったこと、テレビの感想…気が付くと娘は見違えるほどおしゃべりになっていました。「毎日夕飯プロジェクト」は、娘が大学に入学するまで続きました。



トコが聖友ホームの話をしてくれたのは、私がこのエピソードを話して聞かせたことがきっかけでした。トコは、子どもたちだけでなく、子どもを預けている親たちや、毎日子どもと向き合っている職員の人たちも、それぞれに大変さがあることを教えてくれました。「子どもだけでなく、子どもを取り巻く大人たちも大変」という話は、私の個人的体験と

重なるところがあり、気が付くとボランティアを申し出たのです。

ボランティアの私にできることは何だろう？毎日、きちんと栄養のある食事をとり、安全に育てられている聖友ホームの子どもたちには、欠けていることがあるだろうか？最初は、そんな疑問がありました。しかし、トコと話しているうちに、子どもたちにしてあげたくてもなかなか実現できていないことが、まだまだたくさんあるように思えてきました。聖友ホームの子どもたちは、幼少期・思春期・青年期と、価値観の基盤を築く時期を過ごしています。この時期に、見たり聞いたりすることは将来を決定づける場合もあります。きれいなもの、不思議なものと、面白い物など、好奇心を刺激する出会いは、いくらあってもあり過ぎるということはありません。子どもの可能性を引き出すような出会いを用意することができないか、あれこれアイデアを考えてみることにしました。

また、日々、子どもたちと向き合っている大人のための支援策も、考えていきたいと思っています。子育ての、どの部分が大変で疲れるか、ある程度、察することもできますから、何か元気が出るようなアイデアを実現させてみたいと思っています。

この夏、乳児院では保育士さんからのリクエストが多かった、子どもたちのための出張ヘアカットが始まりました。その他、楽器の出張演奏や、保育士さんのリラクゼーションなど、準備中の企画もあります。まだ立ち上がったばかりの小さなプロジェクトですが、微力ながら協力していきたいと思っています。



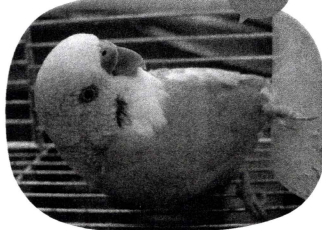
はるはるわ

個性を活かしたホームづくり!

— 聖友学園、8つのホームの子どもたち —

けやきホーム (ワルーフホーム)

「ほくはセキセイインコのマーチです。小学校4年生から高校3年生まで男女6人、そしてほくが7人目のけやきホームのメンバーです。けやきの子どもたちは皆元気よく、体を動かして遊ぶのが大好きです。勉強や遊び、スポーツ、それぞれにとてもがんばっています。」



好きな食べ物は小豆です。

オレンジホーム (ワルーフホーム)

オレンジホームは中高生の男女6人のホームです。みんな大きいので部屋での1人の時間もあつた、夕食後などはリビングで一緒にTVを見たりカードゲームをしたりして団欒の時間も大事にしています。テスト前には何人かがリビングで勉強をする光景も見られます。



夕食後、みんなが団欒して人生ゲーム大会!

茜ホーム (ワルーフホーム)

茜ホームは小学校3年生から高校2年生までの男女6人のホームです。一人ひとりの誕生日にはみんなでおめでとく、気持ちを持ってお祝いできるやせしい子どもたちです。夏にはみんなでお祭りに行ってキャンプをしました。大きな川で釣って川魚を釣って食べ、川で泳いで、大きなワグワグスに泊まって花火をしました。とても思い出に残りました。



秋川でのキャンプ。たくさん川に入って楽しかったです。

ひまわりホーム (ワルーフホーム)

毎日食べるご飯を職員と一緒に作れるのは、ワルーフホームのいいところ。ひまわりホームの子どもたちは幼稚園児から高校生まで男女6人、みんな調理のお手伝い大好き。一緒に作る楽しいね、「おいしい」って言われると嬉しいね☆



みんなでご飯作り!

聖友学園の子どもたち56名は、8つのホームに分かれて生活しています。

阿佐谷北3丁目にある本園の中庭4つ、そして近隣の一軒家を借りた分園としてのグループホームが4つです。

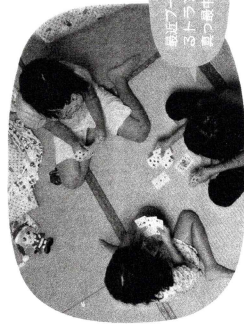
ひとつのホームには6~10名の子どもたちがいます。

担当の職員は、子どもたちの個性を活かしたホームづくりに取り組んでいます。

今回は、それぞれのホームの日々の様子をご紹介します。

メロディホーム (本園2階)

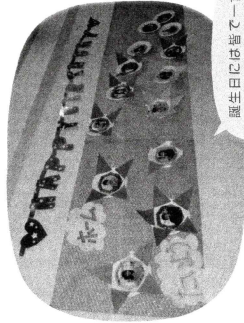
幼稚園児から高校生までの女の子8人、年齢が高い子どもが多いホームです。みんな元気がよく、外では動かすのが大好きな子どもたちばかりです。子ども学校の運動会や体育祭などの子ども学校の運動会や体育祭で大活躍してくれています。



最近ゲームにハマっているトランプゲームの真ん中です!

たいようホーム (本園2階)

3歳から高校3年生まで10人の女の子のホームです。太陽のように明るく元気で笑顔を絶やさないをモットーに生活しています。元気すぎて時々喧嘩もしてしまったりしますが、すぐに仲直りができるホームです。「明るさ」はどこにも負けません。職員子どもたちには負けないように明るく頑張っています。



誕生日には皆で一言メッセージを書いてお祝いしています。

トレニアホーム (本園1階)

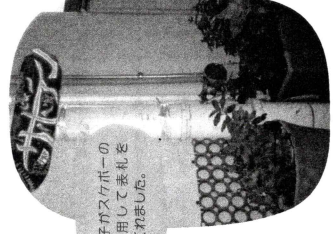
幼稚園児から小学校4年生までの男の子8人のホームです。穏やかで、思いやり、仲良く和やかなホームを目指し、職員子どもも一緒にがんばっています。小さい子が



「大好きな」七ホームの玄関を前けると、幼稚園児たちが迎えてくれます。

サボテンホーム (本園1階)

小学校6年生から高校3年生までの男子6人が生活しています。ホームの目標は「団結」です。施設の行事や活動では力を合わせて取り組めます。先日、1泊2日でキャンプに行きました。食事作りでは野菜を切る人・薪を割る人・ご飯を炊く人と分担し、一生懸命取り組みました。まさに団結した活動が出来たと感じます。これからも団結し、協力し合える関係でありたいと思います。



高3男子がスケッチボードを利用して表札を作ってくれました。

このかひとまれ

「聖友 子育てひろば」の紹介です!!



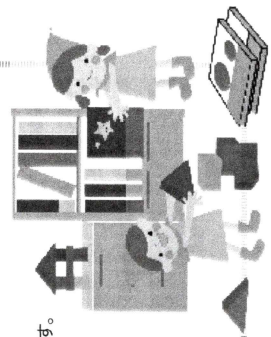
聖友ホームでは、「子育てひろば」を毎月第3火曜日に開催しています。親子でふれあえある内容や子育てについて楽しく話し合える場所となれるように、担当者一同で力を入れて取り組んでいます。子育て広場の様子をご紹介します。詳細は HP をご覧ください。
(<http://www.seiyuhomu.or.jp/>)



のりつけ

ぴーちっこ広場にお集まりください

「ぴーちっこ」は皆様とたくさんのお話ができて広がるひろ場になるとうすスタートしました。皆様には「おたより」のかたちで広場に集まっていたさき、子どもたちに関する様々な事柄を一緒に考えていきたいと思っています。皆様からのたくさんのお便りをお待ちしています。下の用紙を切り取って、ご意見、ご感想などお寄せください。ファックス、Eメールでもけっこうです。
※ Eメールの場合は、件名に「ぴーちっこ係」と入れてください。



のりつけ

のりつけ

※今後継続して「ぴーちっこ」の送付を希望されますか？ ・はい ・いいえ

ご住所 _____ TEL _____

お名前 _____ FAX _____

のりつけ

「ありがとうございました」

次の皆様よりご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

(平成25年8月～11月敬称略)

〈 寄附金 〉

西浦輝浩、(株)日配運輸、石井昌宏、野村栄子、露口美知代

〈 寄付物品 〉

福井麻理奈、田村梨緒子、大柳勝美、西浦輝浩、浅井和子、沼田直美、黒田佐規子、セカンドハーベストジャパン、永井雪栄、内田純子、日本スポーツ用品協同組合連合会、藤田理、寺内昭

〈 パースデーフレンド 〉

杉本洋子、磯野和子、宮秋智子、福山はつ子、善塔貴美子、早水良子、野村栄子、松沢勝子、嵯峨久美子、佐藤美弥子、原あや子、武村明子、佐々木昭祐、二宮徳子

〈 招待 〉

パークレイズ証券(株) (六本木ヒルズイベント&ワークショップ)、日本プロサッカー選手会 (サッカースクール)

※そのほか匿名で様々なご寄附をいただきました。

● 編集後記 ●

学園の夏のお祭り「おたのしみ会」。「聖友子育てひろば」(P6 掲載)とともに、地域の皆様と聖友ホームとのふれあいの場のひとつです。今年も8月26日に、地域の商店の皆様の協力、地域にお住まいの皆様のご理解と178名の皆様のご来場によって、楽しく執り行うことができました。心より感謝申し上げます。

また、聖友ホームは、阿佐谷の「松山通り交友会 夕やけ市」に参加しています。ぜひお立ち寄りください。



料 金 受 取 人 払 郵 便

杉並支店
承 認
3038

差出有効期限
平成26年8月
14日まで
(切手不要)

1 6 6 - 8 7 9 0

聖友ホーム「ぴーちっこ」係 行

東京都杉並区阿佐谷北3-28-19

